

早期アルツハイマー型認知症の検査と診断 「VSRAD」のご案内

平成19年7月より、当センターに早期アルツハイマー型認知症、診断支援システム
「VSRAD」Voxel-Based Specific Analysis System for Alzheimer's Diseaseが導入されました。

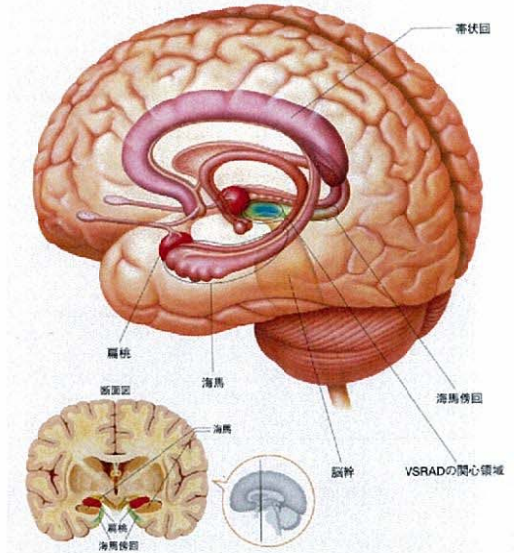
VSRADとは

VSRADは早期アルツハイマー型認知症(→以下AD)に特異的に見られる海馬傍回付近の萎縮の程度を健常者データベース(54歳~86歳男女80名)と比較して評価するソフトウェアです。

頭部MRI検査の際に特殊条件で撮影し、そのデータを解析評価することにより、これまで目視では難しかった早期AD診断の支援情報を提供することが可能となりました。

(ご依頼方法) VSRADをご希望のときは、MRIをお申し込みの際に認知症の検査あるいはVSRADといただき、さらに検査目的の欄にその旨をお書き添え願います。

下記のレポートを無料でお付けいたします。



(注意事項)

- ① 現状では50歳以上の方が対象となっています。
- ② 本ソフトウェアは脳MRI画像から脳の萎縮の度合いを評価するもので、本結果のみでアルツハイマー型認知症(痴呆)の診断をすることは出来ません。
アルツハイマー型認知症(痴呆)診断の基本は「診断と経過」です。
画像診断は補助診断であり、臨床情報をもとにした総合的な診断が必要となります。
- ③ 前駆期を含むADにおいて健常高齢者との比較では80%以上の正診率となることが確認されていますが、逆に偽陰性、偽陽性は合わせて20%程度あります。
- ④ 脳梗塞の存在、体動によるアーチファクト、その他の理由により、解析結果が正しく表示されない場合があります。

サンプルレポート

